

集演講大覺自民國と

特254

508

(輯四第)

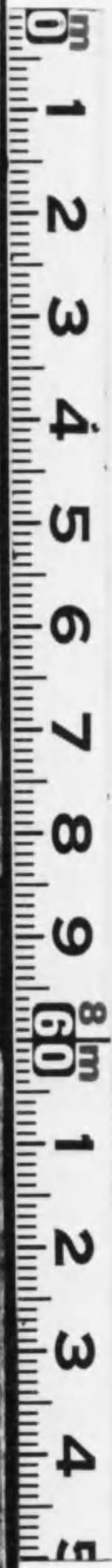
貴族院議員  
元鉄道大臣

井上匡四郎

# 世界の 大勢と 支那の 将来

盟聯央中化文本日 團財  
人法

(番七八一—座銀話電)館新ルレ阪大・町幸内區町麴市京東



# 始



特 254  
508



國民自覺運動パンフレット (第四輯)

時局と國民自覺講演集

法財人團 日本文化中央聯盟





本稿は昭和十二年十二月六日岡山市公會堂及び同八日福岡市公會堂に於て開かれたる財團法人日本文化中央聯盟主催「時局と國民自覺大講演會」に於ける御講演の速記を編輯したものである。(寫眞は井上匡四郎氏)

## 世界の趨勢と支那の將來

貴族院議員 井上匡四郎  
元鐵道大臣

### 一、摩擦する三つの政治觀念

現在の世界は最早東洋は東洋、西洋は西洋として單獨に其の存在を許さないのであります。

片方に起りました重大なる事項は必ず他の方に波及するのであります。我々が最近の世界情勢を考察せんと致しますならば、少くとも世界大戰の當時にまで遡らなければならぬのであります。

世界大戰即ち一九一四年より一九一九年に亘りました大戰は、申すまでも無く有史以來の未曾有の悲惨なる出來事であつたのであります。其の結果は所謂ヴェルサイユ條約により終結したのであります。それは唯表面上の事でありまして、其の條約たるや、或は過酷にすぎ、或は實行

不可能なる點が多くありました爲に、二十年後の今日に於ては其の條約の結果として、再び第二の世界大戰を引き起さんとするが如き情勢に立ち至つて居るのであります。

世界大戰の結果と致しまして、ヨーロッパに起りました新しい政治觀念は、其の起りました時期については前後はありますが、先づ共產主義を擧げなければなりません。又その次には伊太利のファシスト、即ち舉國一致主義と申しますか、次には又、獨逸の國家社會主義、此の三つが先づ主なるものであります。ファシストも要するに國家主義でありますから、之を概括致しますと、共產主義と國家主義。それと大戰を通して存續致し其の後益々擡頭して居りますところの所謂英國一流のデモクラシー主義であります。此の三つの異つた政治觀念が、今日歐洲に對立致して居りまして、其の間の摩擦は益々激烈となり、動もすれば發火點に達せんとする情勢であるのであります。

(4)

## 二、英米佛ソのロツクアウト政策

歐洲大戰の結果各國共、戰勝國と云はず戰敗國と云はず、何れも巨額の國帑を費しました爲に其の結果は何れも非常なる財政上の危機に直面致しまして、國家は如何にして其の創痍を癒さんとするかと云ふ事は、各國とも緊急且非常に困難な問題であつたのであります。然して各國は期

せずして同一方面に向つたのであります。それは國內産業を勃興致しまして外國に對する輸出を増進し、それによつて國の受取勘定を増しまして、而して直面して居る財政上の危機を救済せんとする方針に向つたのであります。而してその各國が産業を獎勵しその製品を輸出せんとするその目的國となりましたのは勿論債權國である米國であつたのであります。

然し乍らアメリカの立場と致しましてはその結果、非常に多くの海外の安い商品が滔々として國內に流入致しました爲に、それでは自國の産業が萎微衰退するより外ないと云ふ考へから、フヅアー大統領の時、所謂高率關稅を設定致しまして、高い輸入稅を課して外國品の米國に入ることを防止致したのであります。

防止されました結果と致しまして英國は其の宏大なる領土、植民地を持つて居ります爲に、自國と植民地の間に特別の關稅を設定致しまして、然して自國內産業を擁護し、自國及び其の植民地に外國製品の入つて來る事を防止せんと致したのであります。即ち英帝國內に於ける特別關稅政策を採用したのであります。

フランスも亦同じ様に大きな植民地を持つて居りますので、之と同じ様な政策を採用し、ロシヤ即ちソ聯邦も、意味は違ひますが、やはり自分の領土内に充分の資源を持つて居ります爲に、自給自足の政策を採用致したのであります。

(5)

自國の産業を防護する爲に關稅を高くし、自給自足を計ると云ふ其の觀念は、その國自身としては當然な事であり、何もそこに不合理はないのであります。

然し乍ら斯の如き政策を採用し得る國家は先決的に非常に大きな領土を持つて居ると云ふ事が必要條件であるのであります。

英、米、佛及びソ聯は、その領土は殆んど地球面積の五分の四を占めて居る様な四つの大きな國であるのであります。之に依つて其の他の數十の小國は其の領土は狭く、植民地もなく、而してその生産物は之等の大國によつて締出しを喰つた様な状態であるのであります。其の前途實に暗澹たるものがあるのであります。

### 三、「持たぬ國」日獨伊の生存權

然し乍ら、國家は大小一様に社會的有機體でありまして、其の生存權は正當且つ有力に主張し得べきものであります。特にその生活機能の旺盛なる國家に對しましては、其の權利は尊重すべきものであると考へられるのであります。果然、歐洲に於て英佛對獨伊の相剋排撃が激烈になつたのであります。所謂他の言葉で申しますと「持つて居る國」と「持たぬ國」との間の軋轢が益々激烈になつて來たのであります。然して其の結果、獨逸に於ては極端なる國家社會主義政府が

樹立せられ、伊太利に於てはファシスト政權が成立し、其の結果としてエチオピアの征服と云ふ事が起つたのであります。これが大體歐洲大戰後に於ける歐洲の情勢の觀念であるのであります。

英、米、佛、ソが自國産業保護政策を採用した結果と致しまして、之により痛烈なる影響を受けました國家の一つが日本であるのであります。日本は獨逸、伊太利と同じ様に所謂「持たぬ國」の一つであるのであります。それでありまして日本は明治以來、原料を外國から輸入致しまして之に加工し、之を輸出致しまして財政上の均衡を僅かに保つて來た國であります。日本の特殊工業とも稱すべき纖維工業が、此の英米の採りました高率關稅政策の爲に如何に痛烈なる打撃を受けたかと云ふ事は、今日未だ諸君の御記憶新たなる事と考へられるのであります。

### 四、日支全面的衝突は當然の歸着

其他日本は常に北方からする所の武力上の壓力を感じずには居られなかつたのであります。これに對し其の防衛に必要な資源でさへも日本は缺けて居りまして、之を補給すべき方途は、日本が正當なる權益を擁して居る滿洲に仰ぐより他に方途がなかつたのであります。然し乍ら其の當時に於ける奉天政權、張作霖、張學良は、その日本の正當なる權利に對しましても出來る丈けの妨害を加へんと致したのであります。之即ち滿洲事變の起つた原因であるのであります。然し

乍ら支那蔣介石は此の事變の終熄後と雖も此の真相を理解せず、寧ろ殊更に之を曲解利用せんと致しまして、之を逆宣傳の用に供し、外列強に對しましては宛も日本が理由なくして滿洲を奪ひ取つたが如く宣傳致し、内國內に對しては排日侮日の具に供し、少年少女の教育に、敵對精神涵養に關する一項を挿入するに至つたのであります。

實に人道上公敵と認むべきものであると考へられるのであります。斯の如き状態の許に再び今回の盧溝橋事件が起つたのであります。その遠因、近因の深いものがあることが察せられるのであります。それでありませうから軍部及び外務當局が此の事件に對して局地解決又は不擴大主義をもつて之に當つても、成功すべき理由は當然無かつたのでありまして、之が今日支那の全面的衝突となつたと云ふ事は當然の歸着であつたのであります。

皇軍は猛然として立つた。然して朝に一城を陥れ、夕に一壘を抜き、今日は既に南京さへ陥落するに至つたのであります。事茲に至つては、蔣介石は速かに其の非を悟つて日本の軍門に降伏すべきであると私は考へるのであります。

##### 五、支那有識者の反省を促す

然し吾々は東洋民族としての立場より考へますならば、宛も兄弟櫛に相闘ぐ様な互の不幸であ

りまして、東洋文明の爲に決して稱讃すべきものでなく、寧ろ恥づべきものであると考へるのであります。私は此の點について支那有識者の深き強き反省を促したいと考へるのであります。支那は數千年の昔に於て世界に卓絶した文化の創造者であるのであります。其の古い文化、殊に其の精神文化は、如何なる民族と雖も決して之と比肩することの出来ない極度の高い標準に達したものであります。此の文化の跡は今尙文獻の上に光彩陸離として残つて居るのであります。其の精神文化の眞髓とも稱すべきものは即ち仁義の二字に存して居るのであります。此の仁義なる觀念は到底西洋文明の想到し得ない崇高至極の觀念であります。然るに今日の支那其の祖先が斯の如き文化の創造者であると云ふ事實すら忘れた様で、國民の矜持無く、彼等は徒らに近世の西洋文化の糟粕を嘗め、それに陶醉隨喜渴仰して居る様であります。斯の如きは先哲に對し洵に羞づべき態度であると考へるのであります。之は斷じて支那古來の國民性では無いのであります。彼等は現在に於て實に穿き違へた國民性を作らんとして居るのであります。

然らば穿き違へたる現代支那の國民性と云ふものは如何なるものであるか、吾々の視る處ではその中心は英國資本の地盤の上に立ち、ソ聯コミンテルンの雰圍氣の中で亂舞して居る處の反射的作用そのものたるに過ぎないのであります。

從て古來の支那の風土民情に相應はしくない全くの外道に過ぎないのであります。

## 六、革命歌の後疎然十字架を畫く

總ての國家には其の國特有の特性——ナショナルリズム——といふものがあるのであります。其の特性は其の國家の歴史文化の上に強く基礎を置くもので、従つて國家國民はこれが發達助長に對しては常に留意し、其の保護に任せねばならないのであります。而してこの國民の特性と云ふ様なものは決して一朝一夕に變化し得べきものではないのであります。

此の點について私は最近に面白い話を聞いた事があります。ソ聯共產國は宗教否認の國家であります。これは舊ロシア帝國が宗教を以て國民教化の中心とした政策と全く正反對の行き方をし居るのであります。昔のロシア帝國に於てはさうでありますから大都市は勿論、田舎の村に至りましても「ギリシヤ・カトリック」の寺院の高い塔が都市の中心を致しまして、特別の都市觀を呈して居つたものであります。然るに現在のソ聯政府は無宗教主義でありますから、現在モスコに於ては盛んに市區改正が行はれて居るのであります。其の改正道路の上に當りました古い立派な寺院は何の惜しげもなく之を毀しつゝあるのであります。然して其の寺院の高い塔の上には必ず「ギリシヤ・カトリック」の釣鐘が下つて居るのであります。此の鐘の朝夕の音が舊ロシア帝國に於ては國民に對し神に敬虔の念を慘み込ませたものであります。

(10)

然して今日、此等の寺院を毀すに當り、此の鐘を引下さなければならぬのであります。これには此の鐘に麻繩をつかまして労働者が革命歌を高唱しつゝ勢よくその鐘を引摺り落すのであります。然るに一旦此の鐘が地面に落ちまして音をあげますや否や、今迄革命歌を唱つてゐた猛者連は以前の様子も何處へやら思はず一同疎然と致しまして、皆胸に十字架を畫くのであります。斯の如き一事を見ましても國民の信念、觀念と云ふものは決して一朝一夕で變更し得べきものでない事が窺はれるのであります。

## 七、支那よ東洋に還元せよ

支那が本來の國民思想を築き上げんと致しますならば、之は數千年前に於て高度の文化を胚胎致しました處の所謂儒教、佛教にその基礎を置かなければならないのであります。然るに今の支那は英吉利及びソ聯に使嫉せられまして、一夜漬けの思想を以て策動し東奔又西走して居る様では到底駄目である。目的は達せられない。此處に支那の根本的錯誤があるのであります。今日支那に對し我々の主張せんと欲する處のものは須らく支那をしてこの根本的錯誤から覺醒せしめ、支那をして東洋に還元せしめたいと云ふ一事であります。血迷へる西洋物質文明の陶醉から覺醒せしめたいのであります。

(11)

若し果して斯の如き事が出来ましたならば、排日、侮日は自然的に消滅致しまして、互に兄となり弟となり、相提携して行くことが出来るのでありませう。斯くして日滿支のプロツクが形成せられ、三國の將來は必ず光榮を以て輝くものであると考へられるのであります。

## 八、日本の勃興に悩む英國

今日世界に覇を唱へて居る文明即ち西洋文明は、主として物質文明であります。この西洋の物質文明は少くとも、原料を東洋若しくは其の植民地に仰ぎ、科學の進歩を利用して之を加工し大量生産による大輸出により獲得した富が今日の歐米繁榮の基礎をなして居るのであります。如斯にして歐米は輒近一二世紀の中に病的にまで肥滿し、之に反し東洋は飢餓的貧困にまで轉落してしまつたのであります。然るに、此處に、最近、日本の勃興によりまして、東西從來の均勢が將に破綻せられんとするに至りました。之が現在西洋殊に英國の悩みであるのであります。翻て顧みますと、日支兩國は古來文明の基礎を同じうする善隣國であります。現に日本文化の眞髓たる儒佛兩教は悠々千數百年の昔、直接間接に彼より我國に傳へられた處の無上の寶であります。然して其の後の史上の隆替盛衰を経て今日の支那、少くとも清朝以後の支那は、嚴然たる意味に於て獨立國とは言ひかねる。殊に現今の支那は或る意味に於ては英米ソの植民地である様な觀を

呈して居るのであります。

## 九、皇軍奮起の崇高なる標的

然るに日本は三十年前國運を賭して世界の陸軍國と稱せらるゝロシア帝國と戦つたのであります。然して終局の勝利を得、之れによつて、西力の東漸を阻止し得たのである。之世界史上に一大新期を劃したと稱せらるゝ所以であります。若し其の時日本が此の戰爭に敗虜したと致しましたならば、支那は勿論、亞細亞の全民族は其の日から白人の泥靴の下に踏み込まれる悲惨なる境遇に陥つたであらふ事は想像するに難くないのであります。支那は此の點について深き反省を加ふべきであります。然るに彼は嘗に其の考察なきのみならず、依然として舊來の外交即ち遠交近攻を以て其の國を現在に於ても維持せんとしつゝあるのであります。蔣介石政權の歐米依存主義は即ちそれであるのであります。支那四億の民衆の凡てが決して心からこの政策を謳歌するものではないのであります。只その力微弱にして訴ふる處がないのであります。皇軍奮起の目的は又この無辜の四億の民衆を救済せんとするものであります。

## 十、日支の經濟的軍事的なプロツク



一方世界列強の狀勢を見ますと、強國は互に或るブロックを作りつゝある形勢があるのです。之に對し日本と支那は永劫互に提携して行くべき運命に置かれた二國であるのであります。吾々は今日支那軍閥の短見非道を擊破し、新政權の樹立を俟て日支の經濟的軍事的の新ブロックを確立せねばなりません。

日支提携ブロック構成と云ふ事の出現が、我が協約國たる獨逸、伊太利の感情を刺戟することがないかと云ふ懸念は必しも起らないでもありません。然しそれと之とは元來其の性質に於て異り寧ろ杞憂の念を懷く必要のない問題であると考へるのであります。此れは寧ろ經濟的軍事的に獨伊の利益を招く結果を來すものであらうと考へるのであります。但し東洋に於ける日本の立場と致しましては、共產主義を防ぐ防共と云ふ事では甚だ消極的であります。世界文明は既に轉換せんとしつゝあるのであります。この世界の將來に對し、文化的基礎を共通にする日支兩國の役割はもつと積極的なものでなければならぬと考へるのであります。此積極的態度の一部門たる意味に於て赤化防止と云ふ受動的の工作も亦必要である。然し其の積極性は東洋道德哲學と西洋科學文明とを止揚し、由て以て第三文明とも稱すべき新文明を醸成する事であらねばなりません。今日、日支兩國が互に損害を招く様な鬭争のその根本原因は、決して物理的必然ではない。一現象に對し同じ様な角度から眺めようとする觀念の共通性が缺けて居るからであります。

先程私は世界文明は今や轉換期にあると申しましたが、此の點について私の私見を述べて講演を終りたいと思ひます。

### 十一、世界文明は今や轉換期にあり

今日世界の繁榮を誇りつゝあるデモクラシー國家の主張する文明とは如何なるものを云ふのでありませうか。それは學問的には色々説明があるでありませう。然し我々専門外のものに映する彼等の通俗觀念としては「一般人民の生活狀態の向上」之が即ち文明なりと稱されて居るのであります。他の言葉を以て言ひ表すならば「一般人民が奢侈的生活を送り得る様になると云ふ事」これ即ち文明なりと考へて居るのであります。故に世は擧つて奢侈の風が横溢し、誰も彼も奢侈に赴かんとして居るのであります。

然しかゝる思想は東洋道德の觀念とは相容れざる寧ろ排撃すべき惡思想であるのであります。蓋し東洋道德は奢侈を以て罪惡なりと認めて居るのであります。孔子は「奢則不孫、儉則固、與其不孫也寧固」と曰て居る。然らば何をか奢侈、おごりと云ふか。之は全く常識問題でありまして決して絶對的のものではあり得ないのであります。

今日物質文明が發達致しました結果と致しまして、我々と雖も昔王侯貴人が曾て夢想だもなし

得なかつたものを不知不識の間に享樂して居るのであります。

然し發達した常識は所謂足るを知る丈けの健全なるものでなければならぬのであります。

老子は「知<sup>ラバ</sup>不足<sup>ク</sup>辱<sup>シ</sup>、知<sup>ラバ</sup>止<sup>ム</sup>不<sup>レ</sup>殆<sup>ク</sup>」と曰て居る。各人か苟も足るを知らず際限なき人間の慾望を満足せんとすれば其處に當然不平無きを得ないのであります。此處に西洋文明の行塞りがあるのであります。然るに東洋文明はこれに反し、敘述の通り解決點則ち人間の遵るべき軌範を標示して居るのであります。

我國には西洋文明の陶醉者が多數あるのであります。幸にして今猶ほ東洋道德觀念を以て思想の根底を築き上げた人物が乏しくはないのであります。然して之等の人々が現に社會中堅層を作つて居るのでありますから、未だ幸に西洋文明の弊害を阻止するに足り洵に欣幸に堪えぬ次第であります。吾が日本文化中央聯盟は東洋文化の眞隨を發揚し之を中外に宣揚する團體である事は國家の將來に對し大きな意義のあるものであると考へるのであります。

私は最後に再び切言致します。希くば支那の有識階級は一日も早く日本の眞意を理解し、互に手を握り合つて欣然として東洋文化の宣揚の爲に、且つ進んでは東洋の精神文化と西洋の科學文化とを止揚し、新文化の醸成の爲に共に一努力する日の近からんことを希望して私の講演を終りたいと思ひます。(終り)

### 財團 日本人 日本文化中央聯盟設立趣意書

我國文化の現状は建國以來固有の文化を基礎として、克く他國文化を攝取し、生成發展今や燦然たる光輝を放ち其の形態の旺なること未だ曾て見ざる所である。然るに其内容を省察するに動もすれば綜合一如の精神を忘れ、模倣追隨に急にして創造的進歩性を缺くの傾向あるは洵に遺憾とするところである。

翻つて世界の大勢を観るに西洋文化は極度の發達を遂げたりと雖、之に伴ふ惡弊亦歴然として現れ、思想の對立、階級の鬭争徒らに激化して世相の險惡漸く顯著の度を加ふるに至つた。此の影響は遂に我國にも浸透し來り民心の動搖、社會の不安、眞に寒心に堪えざるものがある。

斯る時弊を匡救するには、深く我國民性の特質を自覺して、其の精髓を發揮し、廣く東西文化の融合を圖りて、新日本文化を建設するの外はない。

時恰も 皇紀二千六百年を迎へんとするに方り、神武御創業の大御心を拜し國民の悠久を思ひ洵に感激措く能はざるところである。連綿二千六百年、光輝ある日本文化を回想し之が再認識を促し其の眞髓を中外に宣布し以て民族的躍進の契機たらしむると共に、國民的感激を遠く後世國民に傳

へ其の奮起に資するは天業恢弘八紘一字の御理想を翼賛し奉る所以にして、千載一遇の好機に直面せる現代國民の絶大なる歡喜と責務であるといはねばならぬ。  
如上の趣旨に基き官民一致の力に依り、茲に財團法人日本文化中央聯盟を設立し、文化に理解ある各方面の人士と協力し、又洽く文化關係機關と連絡提携し、皇紀二千六百年を記念すべき適切な事業を起すと共に必要なる各種の施設經營を爲し、以て所期の目的を達成すべく盡力せんとするものである。

全國民の共鳴支援を切望して已まない。

### 寄 附 行 爲 (拔萃)

#### 目 的

本聯盟ハ肇國ノ理想ニ則リ我國文化ノ綜合進展ヲ圖リ其ノ眞髓ヲ發揮シ之ヲ中外ニ宣揚シ以テ國運ノ伸長竝世界文化ノ興隆ニ貢獻スルコトヲ目的トス

#### 事 業

本聯盟ハ前條ノ目的ヲ達成スル爲左ノ事業ヲ行フ

- 一、新日本諸學ノ建設竝促進、其ノ他諸般ノ研究、調査ヲ爲スコト
- 二、國民自覺啓發ニ關スル施設竝運動ヲ爲スコト
- 三、日本文化史、日本文化百科辭典、其ノ他ノ著作、編纂、翻譯、出版等ヲ爲スコト
- 四、國史記念館、日本文化圖書館、日本民族博物館其ノ他ノ文化施設ヲ爲スコト
- 五、日本文化展覽會ノ開催 其ノ他講演會、座談會、演奏會等ヲ開催スルコト
- 六、日本文化賞ノ設定、其ノ他内外ニ互リ團體、個人ノ選賞ヲ爲スコト
- 七、常設綜合產業館ノ開設竝促進、其ノ他産業振興施設ヲ爲スコト
- 八、海外文化駐在員ノ設置ヲ促進スルコト
- 九、日本文化萬國大會、其ノ他國際會議ヲ開催スルコト
- 十、内外ニ於ケル關係團體、個人ト聯絡協力シ又ハ其ノ事業ヲ援助スルコト
- 十一、其ノ他理事會ニ於テ適當ト認ムル事業ヲ爲スコト

評參同監同同同同同同同同同  
 議  
 員事 事 事

(省略)

(常務)

會第伯貴日貴貴文日常全法貴伯貴理大教  
 社一生命族滿族族族獨文化務國產業族族族事日本學局  
 社生保險相互會員理事員士長事會士員員長閣官  
 長互員事員員士長事會士員員長閣官

安矢樺水松出高膳下酒香菊  
 藤野山野本淵補井坂池  
 恒愛梅勝次之忠昌三  
 悉太輔曉學次郎助宏正康郎

(5)

同同同同同同同同同同同同  
 理事會

事長長長 役

(常務)  
 (常勤)  
 (常務)

員

(五十音順)

子工所大子貴貴貴外 文 貴 理 帝 公  
 學 學 倉 族 族 族 務 部 族 國 國 國  
 博 博 精 院 院 院 省 次 院 學 學 學  
 士 士 神 議 議 議 歐 官 議 士 士 士  
 長 長 文 員 員 員 亞 員 員 士 士 士  
 所 研 化 員 員 員 局 官 員 士 士 爵

河大大大岡江潮井伊伊小櫻島  
 原河倉部口上賀東山井津  
 春正邦長定之良延松錠忠  
 作敏彥景條助郎一吉吉二重

(4)

昭和十三年二月九日印刷  
昭和十三年二月十三日發行

定價五錢  
(送料共)

編輯者

財團法人 日本文化中央聯盟內  
服部文城

印刷者

片岡務

印刷所

株式會社 正明舎印刷所  
東京市豊島區池袋二丁目九二四  
東京市豊島區池袋二丁目九二四

發行所

財團法人 日本文化中央聯盟

東京市麴町區內幸町二ノ三  
大阪七ル新館  
電話銀座571-187番

## 加 盟 團 體 及 會 員 募 集

★ 銃後の護りは國民自覺運動から！

加盟團體——理事會の承認を受くること

正會員——會費年額十圓以上を納付すること

特別會員——會費年額五十圓以上を納付すること

但し正會員又は特別會員にして五箇年以上會費を納付するか又は一時に完納した方は當該終身會員に推薦す

會員の特典——一、本聯盟所定の徽章を受く

二、本聯盟主催の各講演會講習會に出席自由

三、本聯盟の發行する出版物の一種又は數種の配付を受く

四、理事會の議決を経て別に定むる特別の待遇を受く

★ 戦後の務めは新日本文化の建設へ！

終

